

高校教科福祉におけるピア・レビューを用いた動画を含む 「授業」づくりの効果と検証

角谷 道生* ・ 森脇 健夫**

Effectiveness and verification of teaching creation using peer review in high school subject

KAKUTANI MICHIO and MORIWAKI TAKEO

要 旨

筆者は角谷道生・森脇健夫(2019)において、所属校生徒(以下:生徒)が、タブレットを用いて、社会保障等に関する学習素材(以下:「授業」)を作成し、他校教員により「授業」を他校生徒に実施してもらい、他校生徒のワークシートやレビュー(ピア・レビュー)を通して、生徒が活動全体をふりかえることが、生徒の学習にどのような効果があるのかを、「主体的・対話的で深い学び」が成立しているか検証した。その中で、安倍潤子他(2017)等の先行研究で見られた動画というコンテンツを「授業」に入れることができなかった。理由として、動画を入れることで、かえって知識伝達が中心になり、他校生徒は受身的になるのではないかといった生徒の意見がある。

本研究では、角谷・森脇(2019)の実施内容を参考に、生徒が作成する「授業」に動画を取り入れることが、生徒の学習にどのような効果があるのかを「主体的・対話的で深い学び」に即して検証した。

検証の結果、「主体的な学び」としては、生徒は活動全体に意欲的に取り組み、他校生徒のワークシートやレビューから自ら「授業」に関する課題を見つけていた。また、活動全体が、他校生徒にとってわかりやすいかという、常に他者を意識する必要があるため、その意識が生徒間での一つの指針となり、協力し合いながら、粘り強く取り組むことにつながった。「対話的な学び」としては、年金制度に対する理解の深まりや、他校生徒のワークシートやレビュー越しに、「授業」のあり方をふりかえる姿が見られた。しかし、他校生徒のワークシートやレビュー越しの対話を通して年金制度を、一当事者としてどのように捉え、何ができるのかといった、新たな課題の抽出や解決策を創造するまでには至らなかった。「深い学び」としては、福祉の見方・考え方をベースに、活動の初期から段階的に3つの知識の「活用」(「授業」のテーマを設定するために既存の知識の「活用」)。市役所の年金担当者へのインタビュー内容を考えるために、既存の知識を広げ・深めた「活用」。動画編集・スライド・ワークシートを作成するため、他者に対する伝わりやすさを意識した知識の「活用」)があった。また、福祉の見方・考え方を踏まえ、知識と活用を往還しながら、年金制度に対する理解を深め、「授業」のあり方を探求する「深い学び」があった。

キーワード: 高等学校、福祉、ICT、ピア・レビュー、「授業」づくり、主体的・対話的で深い学び 動画

問題の提起

筆者は、高等学校で教科「福祉」を担当しており、その科目の一つに、社会保障制度や法律等を扱う、社会福祉基礎がある。高校生にとって、社会保障制度や

法律を身近に感じたり、活用場面を目にしたりすることは少ない。そのため、授業での学びは、社会保障制度や法律に関する知識の理解に留まることが多い。

そこで、角谷道生・森脇健夫(2019)において、筆者の所属校の福祉を学ぶ生徒(以下:生徒)がタブレ

* 三重県立明野高等学校

** 三重大学大学院教育学研究科

ットを用いて、社会保障等に関する学習素材（以下：「授業」）を作成し、他校教員により「授業」を他校の福祉を学ぶ高校生（以下：他校生徒）に実施してもらい、他校生徒のワークシートやレビュー（ピア・レビュー）を通して、生徒が活動全体をふりかえることが、生徒の学習にどのような効果があるのかを、「主体的・対話的で深い学び」に即して検証した。ピア・レビューとは本研究で筆者が用いる言葉であり、「生徒が、自分たちと同じ立場である福祉を学ぶ他校の高校生から、学習成果や感想・評価を受け取る活動（角谷・森脇 2019）」である。角谷・森脇（2019）での「授業」は、他校生徒が少子高齢化を自らの問題として捉え、主体的に考える機会にすることを目的に、スライドとワークシートで構成した。

研究の結果、「主体的な学び」として、ピア・レビューを受け取るという活動が、「常に他者を意識する必要がある」という環境を構築し、生徒は他校生徒に発信するという見通しをもって、粘り強く取り組む姿がみられた。「対話的な学び」としては、生徒は他校生徒とのワークシートやレビュー越しの対話を行い、自らの考えを広げ深めていた。また「授業」をつくることで、つながりのある構造化された知識や情報へと変容させていた。「深い学び」としては、福祉の見方・考え方をベースに、生徒自らが、生活に関する事象の当事者として、少子高齢化を深刻な問題として捉え、「どのようにして他校生徒が少子高齢化を自分自身の問題として受け止め、解決策等を考える機会にできるか」という探究課題を立て、スライド・動画やワークシートを作成し、「授業」を創造するという学びの過程が見られた。

課題としては、「授業」の中に動画を取り入れられなかったことがある。研究を始めた当初は鳴門教育大学において、同大学の大学院生が、福祉教育授業（心のバリアフリー）における導入部分のモデル動画コンテンツを作成（安倍潤子他 2017）していることを参考に、学習動画を作成する予定であった。しかし、生徒から「学習動画では、知識伝達为中心になってしまい、こっちが話しているのを聞いているだけでは、他校生徒が眠くなってしまうのではないか。」という意見や「質問を考える時間を取るために、一時停止などの作業が必要になり、集中力が切れてしまうのではないか。」といった意見が出され、動画を入れないことにした。

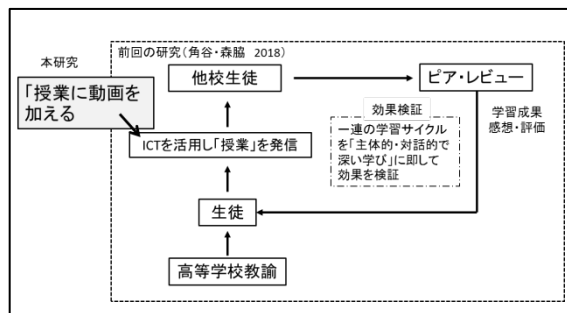
では、動画というコンテンツを入れることの効果や、その効果が発揮される条件とは何か。

本研究の目的と方法

本研究では、筆者が所属する高等学校の介護職員初任者研修受講者3名（3年男子1名・女子1名 2年女子1名 以下：生徒）に、一人一台タブレットを貸し

出し、タブレットを用いて、社会保障等に関する動画を含む学習素材（「授業」）を作成する。作成した「授業」は、他校の福祉を学ぶ高校生（以下：他校生徒）に視聴してもらい、ワークシートやレビューをもらう「ピア・レビュー」を行う。こうした学習のサイクルが生徒の学習にどのような効果があるのかを、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に分けて検証していく（図1）。

図1. 本研究の概要図



実施内容

平成30年11月から平成31年1月の間に、「授業」の作成から、他校生徒のレビューを通したふりかえりまでを行った。科目は社会保障や法律等を扱う「社会福祉基礎」で実施した（表1）。

表1. 実施の回数と内容

実施科目 社会福祉基礎	
実施回数	内 容
1	年金制度についての調べ学習と疑問の抽出
2	市町村の担当者へのインタビュー内容の作成
3	市町村の担当者へのインタビュー・動画撮影
4	動画編集
5	スライドとワークシートの作成
6	スライドとワークシートの作成（最終調整）
	他校実施
7	他校のレビューを通した、ふりかえり

1回目の授業の中で、社会保障等に関する「授業」づくりのテーマとして、生徒から年金制度があがった。その理由として、「自分の周りにいる大人たちが年金を払う額は多いけど、ちゃんともらえるのか不安だと言っていた。」と一人の生徒が発言したことがある。他の生徒もこの意見に共感し、テーマを年金制度にすることにした。教師（筆者）から「授業」づくりについて、「今回は動画を取り入れたいと考えている。しかし、動画は知識伝達が中心になり他校生徒が主体的に年金制度を考えるものになりにくいという意見が、前回出ていた。どうすれば他校生徒が主体的に考えるものに

できるだろう。」と問いかけると、生徒から「(動画を
入れるなら)今回は考えるというより、知ることがメ
インになると思う。その結果、他校の生徒は(年金制
度)がどうなっているか知って、納得する人、批判を
する人、疑問が浮かぶ人など色々な人が出てくると思
う。知ってそこから何かを考えることが、できると思
うので、結果的に考える授業になるのかも。*()
内は筆者加筆」という意見が出た。また、どのような
動画を作成するかと生徒に問いかけると、「実際にその
仕事(市役所等で年金を担当している人)に話しても
らう動画は、説得力があって、内容もきっちりしてい
ると思うから、(他校生徒も)興味を持って見てくれそ
う。興味を持って見てくれたら、自分の考えも出てく
ると思う。*()内は筆者加筆」という意見が出た。
そこで、市役所の年金担当者に何を聞くのか問いかけ
ると、生徒自身が自分たちでタブレット等を用いて年
金制度について調べ、そこから疑問に思ったことを中
心にインタビュー内容を決めることになった。調べた
内容は、皆保険について、年金の種類(国民年金と厚
生年金)、賦課方式について、年金受給の条件(老齢・
障害・遺族)である。

2 回目の授業では、調べた内容から疑問に思ったこ
とを中心に、インタビュー内容を次のように設定した。
・年金制度の魅力として、どういったものがありますか。
・年金制度の課題としてどういったものがありますか。
・私の周りの大人たちは、年金を払う量は多いけど、自分
たちが年金をもらう年齢になったら、払った分ぐらいのお
金はもらえるのか?とっています。実際のところはどうか。
・60歳で定年退職するのに、65歳以上からしかもらえない
のはどうしてですか。
・第1号被保険者は、保険料免除制度が受けられるとある
が、申請書を承認されない場合はあるのですか。
・私は今回年金のことで調べて、20歳になって
から、年金を払うことの大切さに気づくことができました。他
の高校生が、同じような気持ちになるためには、どういった
ことが必要だと思いますか。

3 回目の授業では、所属校のある市役所にて、年金
担当の方にインタビューを行い、タブレットを用いて
動画を撮影した。

4 回目の授業では、タブレットを用いて撮影した動
画を編集した。編集内容として、動画の要点の絞りこ
みと、撮影した動画の音声小さかったこともあるが、
他校生徒が理解しやすいように、文字(テロップ)を
入れた。

5 回目、6 回目の授業では、タブレットを用いて動画
を含むスライドとワークシートを作成した。

完成した「授業」の構成は次の通りである。

1. タイトル、2. 授業の目標、3. 最初の質問「あなたは

年金に対して、どのようなイメージをもっていますか?」、4.
生徒(筆者所属校)が考えた年金に対して持っているイメ
ージを提示、5. 生徒(筆者所属校)が年金制度について
調べたことを提示(1 回目の授業内で調べた内容と同様)、
6. インタビュー動画1(年金の魅力について)、7. インタビ
ュー動画2(年金の課題について)、8. 賦課制度における
不安(私たちで払う保険料が増えるの?)、9・インタビ
ュー動画3(賦課制度の魅力について)10. 年金制度につ
いて理解したこと・気づいたこと・考えたことをワークシ
ートに記入、11. 生徒(筆者所属校)が年金制度について理
解したこと・気づいたこと・考えたことを提示、12. 最後の
質問(最初の質問と同じ)

「授業」の構成の中で工夫した点を2つあげる。1
つ目は、最初の質問と最後の質問を同じものにしたこ
とである。最初と最後の回答を比較することで、「授業」
を通した他校生徒の学びが客観的にわかりやすくなる。
2 つ目として、他校生徒に質問をした後に、生徒(筆
者所属校)が考えたことを提示したことである。仮に、
他校生徒から意見が出なかった場合、生徒の意見は、
こういう風に考えればいいのかという参考例になり、
他校生徒が意見を考えやすくなる。また、生徒の意見
を知ること、他校生徒の視野が広がったり、考えが
深まったりする機会となることをねらいとした。

7 回目の授業では、他校生徒のワークシートと感想
(ピア・レビュー)を読み、活動全体のふりかえりを行
った。

完成したスライドの一部とワークシートの内容は次の
通りである。

「授業」の構成：2. 授業の目標として作成したスライド

この授業の目標

- ①年金制度に関する知識を身につける。
- ②年金制度に対する自分なりの考えをもつこと。

「授業」の構成：3. 最初の質問として作成したスライド

最初の質問

あなたは年金に対して、どのようなイメージ
をもっていますか?

個人の考えをワークシートに書いてください。(2分)
*活動時間は目安です。

「授業」の構成：4. 筆者所属校の生徒が考えた年金に対して持っているイメージを提示するために作成したスライド

みなさんは、どのような回答ができましたか？
私たちは下記のような回答をしました。

- ・ 自分が年金として払った分が戻ってくるのか不安
- ・ 高齢者が働いてなくてもより良い生活をおくるためのお金

「授業」の構成：5. 生徒（筆者所属校）が年金制度について調べたことを提示したスライド

わたしたちが、調べて気づいた 年金制度の3つの特徴

①年金とはどんな仕組み？

年金は生活上のリスクを **みんなで支え合うシステム**

②年金を支える生活上のリスクとは？
支えるリスクは大きくわけて3種類！

- ・ **老齢年金** (65歳になった時)
- ・ **障害年金** (病気や怪我で仕事などが制限される場合)
- ・ **遺族年金** (亡くなった被保険者の遺族) の3種類！

③年金は大きくわけて二種類。

一つは自営業の方や学生の方、専業主婦の方が入る **国民年金**。
二つ目は民間企業の方や公務員が入る **厚生年金** です



インタビュー動画3の一場面

賦課制度の魅力について質問しました。

賦課方式の魅力とは

高齢者になった時の賃金水準や物価により
もらえる額が変わる!!

生徒が作成したワークシートの内容

項目	説明文及び取り組み内容
本授業の目標	①年金制度に関する知識を身につける。 ②年金制度に対する自分なりの考えをもつこと。
最初の質問	あなたは年金に対して、どのようなイメージをもっていますか？個人の考えをワークシートに書いてください。(2分) * 活動時間は目安です。
「私たちが調べた年金制度について」や「インタビューの内容」を聞いて	皆さんがこれまでの話を聞いて年金制度について「理解したこと」と「気づいたこと・考えたこと」をワークシートに書いてください。 ①ワークシートに個人の意見を書いてください。(5分) ②グループになって、個人で考えた意見を共有してください。そのときに、ワークシートの「グループの意見」を書いてください。(3分) ③各グループで出した意見を発表して、クラス全体で共有してください。(2分) * 活動時間は目安です。
最後の質問	あなたは年金に対して、どのようなイメージをもっていますか？個人の考えをワークシートに書いてください。(2分)
全体のふりかえりと感想	この授業の中であなたが気づいたこと、考えたことを、ワークシートに書いてください。私たちが作った授業を受けてあなたが感じた良かったところと、改善してほしいところをそれぞれ教えてください。

インタビュー動画への導入のために作成したスライド

実際に年金業務に関わっている方は、どのように年金のことを考えているのでしょうか？

疑問に思った私たちは、市保険年金課の
さんとさんに直接お話を聞いてきました。



生徒が、スライド・動画編集とワークシートの作成を終えたときに、活動全体をふりかえって、気づいたことや考えたことを記載した内容は次の通りである。

【スライド・動画編集とワークシートの作成を終えた生徒の気づきや考えたこと】

- ①やっぱり難しかった。文を作ったりがとても難しい。今回は動画をつくるっていう初めてのこともしたけど、テロップを出したりも難しかった。まとめるのがすごくたいへんだったと思います。
- ②市の職員の方の所まで行ったり、動画で細かい文字を入れたりしたのは、結構大変だったけれど、それはそれで楽しかった。他校の人へ作ったものだけど、自分の知識がすごくついた。前とは違って、アプリを使って動画を作ったり、何より楽しみながらできたのが良かった。
- ③仕事によって年金の額が変わるというのは、「授業」をつくるまでは知らなかった。私のなりたい作業療法士は、年金は多いのかな、と思った。65歳以上からしか年金がもらえない理由がわかって良かった。

生徒が、他校生徒のワークシートやレビューを読み、気づいたことや考えたことについて記載した内容は次

の通りである。

【生徒が、他校生徒（3年生5名 前回（角谷・森脇 2019）の他校生徒と同じ）のワークシートやレビューを読み、気づいたことや考えたこと】

- ①自分たちも知らなかった年金の額が変化するというのを知ってもらえてよかった。みんなで支え合っていることを理解してくれていたのはすごくよかった。
動画の音が小さいのはちょっといけなかった。でもテロップをつけていたからまだ少しは理解してもらえたと思う。字を大きくてみやすくなった方がよかったと感じた。少子高齢化が進むと支払いが大変になることをしっかり理解していた。前回の少子高齢化の「授業」とつながっている。
自分たちと考えていることや思っていることが似ているなっ
てすごく感じました。不安なことも考えていることも同じだな
と思った。みんな将来のことなども考えてくれていて、すご
いなと思った。私たちが、賦課方式のことに注目しすぎ
て、年金には老齢年金以外の種類があることを十分に
他校生徒に伝えきれなかった。
②いなべ市の方にインタビューしたのは良かった。初めて
動画編集を授業ではしたので、字が小さいなどの改善
点もあった。音声をもっと大きくできたら良かった。たくさ
んの生徒の方が、その時の物価で変わると理解してくれ
た。自分が助けてもらう時が必ずくるとか、たくさん色々な
ことを理解してもらえた。今までのイメージと変わっていたり
して嬉しかった。年金には老齢だけでなく、障害・遺族年
金もあることが最初しかふれていなくて、最終的に他校の
生徒の頭に残っていなかった。
③最初の質問で年金とは老後の生活に必要なお金と
書いてあったが、最後の質問では生活するのに必要な
お金に変わっていた。この人は、老後以外にも年金が使
われているのを分かってくれたのだと思う。

生徒が2回の「授業」づくりの活動全体を通して、
気づいたこと・考えたことについて記載した内容は次
の通りである。

- ①いろいろ何個かためたけど（何度も作り直して失敗も
したけど）、それがダメだったとは思わないし、むしろすご
いい経験になったと感じた。自分は文を作って打ち込む
というのがすごく苦手だけど、二人（同じ受講生徒）がい
ろいろと頑張ってくれたから完成したと思って、すごくな
げな達成感があります。色々な意見を出し合ったりするの
は、あんまりないので、すごく良かったです。つくっている
時も楽しかったから良かったです。

②一番初めに、「授業」づくりの話聴いたとき、イメ
ージがわきにくくて、あまりわかっていなかったけど、実際や
ってみて、パワーポイントやアプリを使ったりして、慣れてく
るうちに楽しくなってきた。そして、他校からいろいろな評
価や意見をもらえて、「こうして良かったな」「次はこうしたい」
という考えも生まれたりしたので、すごくためになった。
授業を自分で作ると、授業を受けるより、なおさら
頭に入る。最初は大変そうで、あまりのらなかったけれど、
今ではやって良かったと思います。

③私はスライドが簡単でしかもあまり多く作れなかった
が、他の人（同じ受講生徒）はしっかりと文字が書かれて
おり、さらにイラストを挿入しわかりやすいものにして
いた。自分も見習いたい。他の高校生の意見が素晴らし
くて、同じ高校生だと思えない意見もあり、こういう言
葉はとてうれしいし、モチベーションが上がりました。

*（ ）内は筆者加筆。

生徒が2回の「授業」づくりを通して感じた活動全
体のメリットとデメリットは次の通りである。

生徒	メリット	デメリット
①	（他校の生徒に「授業」をつくるのは絶対には経験だからとても良い。先生たちが授業をしている大変さがわかっていい。	人にどうしたら伝えるのかを考えるのが難しい。
②	自分の知識が増えた。他校との関わりができた。パワーポイントを少し使えるようになった。楽しくできた。	時間がかかった。
③	ただ文章を書くだけでなく、イラストを入れたりなど見やすい工夫をすることが大切だと思った。	少し調べた内容が浅くなっているものがあつたような気がする。もっと深く調べないといけないと思いました。

*生徒の回答にある冒頭の番号は同じ生徒を示している。

他校生徒からの「授業」に対する感想や評価の中で、「年金についてわかりやすかった」「年金のことについて専門家に聞きに行ったことや動画にしたのが良かった」という肯定的な意見が5名全員から出された。改善点として、「動画の音声小さいこと」「スライドの文字が小さいこと」という意見がそれぞれ2名ずつから出された。

他校生徒が「授業」受講後に「この授業の中で、あなたが気づいたこと・考えたことについて書いてください」という問いに対しての回答は次の通りである。

【他校生徒が「授業」から気づいたこと・考えたこと】

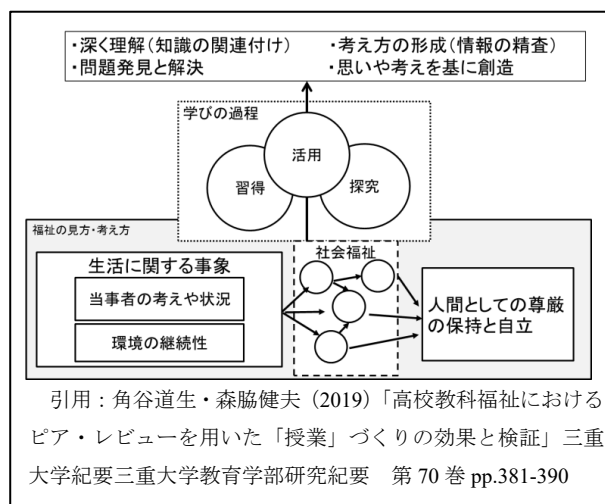
（自分が）若うちにしっかり働いていないと、今の高齢者の生活が苦しくなるんだなと思った。
年金はとて大切だとわかった。年金の額が物価によって変化することがわかった。
年金はみんなで支え合うということがわかった。国民年金と厚生年金の違いがわかった。年金は難しい制度と思っていたけど、意外と簡単な制度だと分かった。
年金がいろいろな役割をになっていることに気づきました。
年金は、一つひとつの都市の物価によって変わってくるから、払われる額が少ないときや多いときと不安定になるのかなと思った。

考察

ここで、本研究の中で見られた生徒の活動や「授業」づくりを終えた時などに記載したコメントを、角谷・森脇（2019）の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を参考に、その効果を検証していく。

角谷・森脇（2019）は、主体的な学びと対話的な学びにおいては、中央教育審議会答申（2016）に示す内容をもとに効果を検証している。深い学びについては、中央教育審議会答申（2016）ⁱⁱを土台にし、福祉の見方・考え方を文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領解説 福祉編」ⁱⁱⁱや福祉に対する考え方を歴史的な動向から捉え、深い学びを図2のように示している。

図2. 福祉の見方・考え方を踏まえた深い学び



1-1 「主体的な学び」

「スライド・動画編集とワークシートの作成を終えた生徒の気づきや考えたこと」において、生徒は、「他校の人へ作ったものだけど、自分の知識がすごくついた。前回とは違って、アプリを使って動画を作ったり、何より楽しみながらできたのが良かった。」と活動全体を通して、自ら意味を見出し、意欲的に取り組んでいることがわかる。また、「すごくたいへんだった。」と述べている生徒も活動全体のふりかえりでは、同じ受講生の助けもあり、粘り強く取り組んだことで「授業」が完成できたことに、達成感を感じている。他校生徒のワークシートやレビューを読むことを通して、「賦課方式のことに注目しすぎて、年金には老齢年金以外の種類があることを十分に他校生徒に伝えきれなかった。」等の自分自身で「授業」の課題に気づいていた。

角谷・森脇（2019）と同様に、本研究の活動全体が他校生徒という他者を意識することが前提となるものである。自分だけがわかる、理解できるという自分本位の理解でなく、他者にとってわかりやすいか、他者が理解できるかどうかを追求することは、個別的で多

様な興味や関心を持つ生徒たちに一つの共通認識をもたらしものであり、受講生同士力を合わせ、粘り強く取り組むことにつながった。

1-2 「対話的な学び」

他校生徒（福祉を学んでいる高校3年生5名）のワークシートやレビューを読んだ生徒のコメントからは、自分たちが伝えたいことが他校生徒に伝わったかどうかに関心していることがわかる。これは、他校生徒とのワークシート越しの対話により、年金制度に対する理解の深まりや考えの広がりというより、「授業」づくりのあり方に対する理解の深まりや考えの広がりであったことを示している。田村学（2018）は、対話における価値の一つに、「他者への説明による情報としての知識や技能の構造化」をあげており、「子供は身につけた知識や技能を使って相手に説明し話すことで、つながりのある構造化された知識や情報へと変容させていく。（田村2018 p21）」と述べている。今回の「授業」づくりを通して、生徒は、年金制度を他校生徒にどのように伝えるかを考えることで、年金制度に対する理解は深まっている。また他校生徒のワークシートやレビュー越しに、「授業」のあり方をふりかえり、よりよい「授業」に対する考えも深まっている。しかし、他校生徒のワークシートやレビュー越しの対話を通して、年金制度を一当事者としてどのように捉え、何ができるのかといった、新たな課題の抽出や解決策を創造するまでには至らなかった。

その要因の一つとして、「授業」に市役所の年金担当者のインタビュー動画を一つしか提示しなかったことがある。専門家である年金担当者の意見や考えは説得力があるため、それらに対し、高校生が疑問を持ったり、批判的に意見を出したりすることが難しかった。今後、全く意見が異なる方のインタビュー動画を併せて提示するなどの工夫が必要である。

1-3 「深い学び」

本研究では、「図2. 福祉の見方・考え方を踏まえた深い学び」にあるキーワードにそって、生徒の深い学びについて考察する。

これまでの福祉の授業や日常生活を通して生徒は、周りの大人たちが年金制度に対する不安を持っており、自分たちも将来関係することだと認識していた。また、市役所の年金担当者という実際に年金制度を扱っている専門家が身近におり、インタビュー動画を取りやすい点をあげ、年金制度を「授業」の題材とすることを決めている。これらは、これまでの福祉の授業や日常生活での学びを「活用」を示すものである。この時点で、生徒たちは、「生活に関する事象」を年金制度に対する不安とし、「当事者の考えや状況」を自分自身や周

りの大人、「社会福祉との関連付け」は年金制度としている。また、「人間としての尊厳の保持と自立」の人間とは、皆保険の考えから、日本にいる全員としている。年金制度という題材が決まったことで、「他校生徒に、どのように年金制度と伝えるか、また年金制度に対する自分の意見を持てるためにどうするか」という「探究課題」を設定している。「探究課題」にそって、年金制度について自分たちで調べ、市役所の年金担当者にインタビューする内容を検討している（「活用」）。市役所の年金担当者へのインタビューから得られた意見は、「環境の持続性」を考慮した意見となり、その後の動画編集・スライド・ワークシートの作成における「活用」の質を高めることにつながった。この「活用」を通し、年金制度に対する知識の「習得」の質が高まった。他校生徒からワークシートやレビューを読むことで、「授業」のあり方に対する理解が深まり、問題発見と解決方法についての検討を行っている（図3）。

本研究にあった深い学びの特徴的なものとして3段階の「活用」があったことがある。3段階の「活用」とは、これまでの授業や日常生活での学びを活かしてテーマを設定する「活用」。インタビュー内容を決めるため年金制度について調べたことからインタビュー内容を決める「活用」。動画編集・スライド・ワークシートを作成する「活用」である。各段階において、生徒は自分の知識に広がりや深まりを加えながら、知識を他者に伝わりやすく「活用」する姿が見られた。また、福祉の見方・考え方を踏まえ、知識と活用を往還しながら、年金制度に対する理解を深め、「授業」のあり方を探求する「深い学び」があった。

図3. 本研究における深い学びの過程の順番

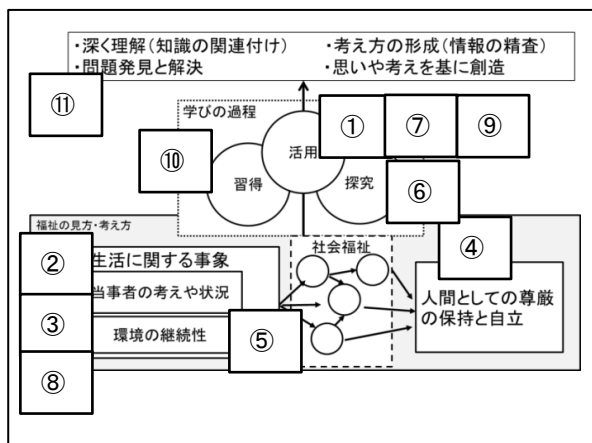


図3に示した本研究における深い学びの過程の順番は、便宜上キーワードに沿ってわかりやすく示したものであり、各キーワードがきれいに区分できるものではない。それぞれのキーワードは、密接に関連しながら、行き来するものである。

他校生徒のワークシートと他校教師のアンケートの回答から見る成果と課題

本研究の効果と検証は、筆者の所属校生徒を主としたもので、他校生にどのような効果があったかを検証することを目的にはしていない。しかし、他校生徒がワークシートに記載した内容や他校教員に実施したアンケートから、本研究が他校生徒に与えた成果や本研究の課題をみることができる。よって、ここで、他校生徒のワークシートと他校教師のアンケートから、本研究における成果と課題を述べる。

他校教員による授業後のアンケートには、「同じ年齢の生徒が作成した授業なので、普段より興味を持ち、熱心に取り組んでいた。」「ワークシートに記入することで、自分の意見を考える機会が持てたり、クラスメイトや他校（筆者所属校）の生徒さんの意見を聞くことで、他者から学ぶことができた。」と書かれていた。また、課題としては、「生徒たちに、前回（角谷・森脇2019）よりワークシートに書かれている分量が少ない理由を生徒に尋ねると、『年金の内容が難しくて書けなかった。』と言っていました。」また、「内容があまり理解できなかったので、自分の意見を持つことが難しかった」と書かれていた。最初の質問と最後の質問（共に同じ質問「あなたは年金に対して、どのようなイメージをもっていますか」）の他校生徒の回答（表2）をみると、最初の質問に比べ、最後の質問では、賦課制度の中で支給時の物価により支給額が変化することを理解していることはわかる。しかし、年金には老齢年金以外にも障害年金、遺族年金があることや、年金制度に対する自分の考えはあまり記載されていない。

表 2. 他校生徒の最初の質問と最後の質問の回答

最初の質問	最後の質問
貰えるお金が少ない	時代によって貰える年金の額が変わっていて、ちゃんと将来良い生活ができるようにするもの
年をとってからの生活に必要なお金	将来の生活費の貯金
老後でもらえるお金	仕事の違いで年金が変わる。貯金。老後でもらえるお金
老後の生活に必要なお金	生活するのに必要なお金
60〜65歳以上の高齢者にお金を援助している	年金はその年の物価に合わせて変わっているのがわかった

本研究の到達点と課題

本研究では、筆者が所属する高等学校の介護職員初任者研修受講者3名（3年男子1名・女子1名、2年女子1名、以下：生徒）に、一人一台タブレットを貸し出し、タブレットを用いて、社会保障の一つである年金制度に関する動画を含む学習素材（「授業」）を作成し、他校教師により他校の福祉を学ぶ高校生に実施してもらい、他校生徒のワークシートやレビュー（ピア・レビュー）を用いて生徒が活動全体をふりかえるとい

う学習のサイクルが生徒の学習にどのような効果があるのかを、生徒が記載したコメント等を参考に、角谷・森脇（2019）の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に沿って検証した。

「主体的な学び」としては、活動全体に意欲的に取り組み、他校生徒のワークシートから自ら課題を見つける姿が見られた。また、活動全体が他校生徒にとってわかりやすいかという、常に他者を意識したものであり、その考えが生徒間に一つの指針を与え、協力し合いながら、粘り強く取り組むことにつながった。

「対話的な学び」としては、年金制度に対する理解の深まりや、他校生徒のワークシートやレビュー越しに、「授業」のあり方をふりかえり姿は見られた。しかし、他校生徒のワークシートやレビュー越しの対話を通して、年金制度を一当事者としてどのように捉え、何ができるのかといった、新たな課題の抽出や解決策を創造するまでには至らなかった。

「深い学び」としては、福祉の見方・考え方をベースに、活動の初期から段階的に3つの知識の「活用」があった。3段階の「活用」とは、これまでの授業や日常生活での学びを活かしてテーマを設定する「活用」。インタビュー内容を決めるため年金制度について調べたことからインタビュー内容を決める「活用」。動画編集・スライド・ワークシートを作成する「活用」である。各段階において、生徒は自分の知識に広がりや深まりを加えながら、知識を他者に伝わりやすく「活用」する姿が見られた。また、福祉の見方・考え方を踏まえ、知識と活用を往還しながら、年金制度に対する理解を深め、「授業」のあり方を探求する「深い学び」があった。

課題としては、「授業」づくりの活動や他校生徒とのワークシート越しの対話を通して、年金制度の一当事者意識として、多面的に捉え、深く理解する「対話的な学び」があまり見られなかったことがある。本研究では「授業」に動画を取り入れ、知識を正しく伝達することが中心となった。その結果、生徒は、年金制度に対する知識を身につけ、他者に伝わりやすい「授業」のあり方を検討することはできた。しかし、前回の研究（角谷・森脇 2019）にあった、「授業」づくりの活動や他校生徒とのワークシート越しの対話を通して、改めて年金制度（今回は少子高齢化）に関わる一当事者として、物事を多面的に捉え、深く理解する「対話的な学び」は生徒のコメントからは、あまり見られなかった。

その要因の一つとして、市役所の担当者のインタビュー動画を一つしか提示しなかったことがある。年金制度を実際に扱っている市役所の担当者の話は、的確かつ説得力があった。そのため、筆者の所属校の生徒や他校生徒にとって、疑問を持ちにくく、批判しにく

いものになっていた。

現段階で考えるものとして、全く異なる意見を持つ方のインタビュー動画を加えることがある。基本的な知識を伝達するのであれば、一つのインタビュー動画でも成果を得られやすい。しかし、生徒たちが当事者意識を持って、新たな課題の抽出や解決策を創造するためには、異なる意見も併せて提示する必要があったのではないか。全く異なる意見を持つ方とは、今回の場合、実際に年金制度を利用している方がいる。その方にインタビューを行い、年金制度を実際に利用したことでわかった課題や不満等のインタビュー動画を作成する。そのインタビュー動画を市役所の年金担当者のインタビュー動画と併せて提示するのである。二つの異なる意見にふれた生徒たちは、物事を多面的に捉えることができ、自分なりの意見を持ち、そこから課題の発見や解決策の創造することにつながったのではないか。

また、本研究のように動画や「授業」を作成せずに、他校生徒からレビューをもらう「ピア・レビュー」に特化した形も可能である。動画や「授業」を作成するには、時間がかかり、学校のカリキュラムや生徒の状況によっては、実施が困難である。しかし、同じ高校生ががんばっていることを目にすることは、同校の生徒同士では得られない刺激を双方の生徒に与えている。具体例として角谷・森脇（2019）にも述べているが、「生徒が授業での学びをもとに、レポートを作成し、他校生徒に向けて発信し、その感想や評価を得るという活動がある。また、スカイプなどを通して、学習成果の発表を行い、リアルタイムにピア・レビューを受け取るという活動などもある。」今後、備品や時間をあまりかけずに、多くの学校の生徒同士が、つながり、学び合える取り組みを実施・検討していく。

本論文は、平成30年度日本学術振興会奨励研究の報告内容の一部である。

謝辞

ピア・レビューを行うにあたり、協力校として三重県立紀南高等学校 川嶋由美子教諭、同校教科福祉選択者3年生の生徒のみなさんに、感謝申し上げます。

注

i 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。（中央教育審議会答申 2016 pp.49-50）

【対話な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

（中央教育審議会答申 2016 p.50）

ii 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。（中央教育審議会答申 2016 p.50）

ⁱⁱⁱ福祉の「見方・考え方」は、「生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けることを意味している。

（文部科学省 2018「高等学校学習指導要領解説 福祉編」p12）」

参考文献

- 安倍潤子、宇坂 徹、片山達也、廣田そよか、西山 樹、佐野友香、仁木智輝、高橋真琴（2017）「福祉教育授業モデル動画コンテンツの作成ーラーニング・コミュニティの活用を手がかりにー」 鳴門教育大学情報教育ジャーナル No.15 (1) pp.1-6 2017
- 中央教育審議会（2016.12.21）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
- 角谷道生・森脇健夫（2019）「高校教科福祉におけるピア・レビューを用いた「授業」づくりの効果と検証」三重大学紀要三重大学教育学部研究紀要 第 70 巻 pp.381-390
- 文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領」
- 文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領 解説福祉編」
- 田村学（2018）『深い学び』東洋館出版社